

1. 本時のねらい

(1) 教科のねらい

探検で見つけた、みどりのまちの「いいところ」を、自分なりの方法で工夫して表現することができる。(思表)
また、今まで意識していなかった「いいところ」に気づくことができる。(気づき)

(2) タブレット端末を取り入れた意図

- ・ 映像が情報のやりとりを支え、みどりのまちの「いいところ」を共有することに有効である。
- ・ 伝えたいことを伝える表現手段の1つとして、低学年の子どもにとっても活用が容易である。

2. 単元の概要 (合計17時間)

第一次 ねらいと見通し をつかむ	○地域への関心を高め、探検への思いをもつことができる。 ・ どんな人がいるのかな、どんな場所があったかな？ ・ すきな人やすきな場所を紹介しよう。
第二次 地域探検を通して こだわりをつくる	○クラスでまち探検し、発見したことを紹介し合う。 ・ 探検の準備をして、みんなで探検に出発！（4コース） ・ 発見したことを紹介し合おう。 *教師がiPadを探検に持ち出して撮影し、発見整理時に写真を活用する。
第三次 こだわりグループ で探検し、発見を 紹介する	○ こだわりグループでまち探検し、みつけた「いいところ」を紹介し合う。 ・ インタビューの準備をして探検に出発！ * 6グループ（自然、海、健民プール、パン屋、ピザ屋、公園） ・ 紹介の準備をして、みどりのまちの「いいところ」を紹介し合おう。 * 各グループが iPad を探検に持ち出して撮影し、大型 TV に写真や動画を提示して発見を紹介する。
第四次 学習をふりかえる	○ 鳥屋小（2年）への探検交流ビデオをつくり、学習をふりかえる。 ・ みどりのまち紹介ビデオレターをつくろう。 *E-REPORTで作成。（スズキ教育ソフト） ・ みどりのまちの「いいところ」とこれまでの学習をふりかえろう。

3. (タブレット端末を取り入れた) 授業デザインのポイント

普段何気なく見ている自分のまちのよさに気づけるようにしたい。そのためには、直接地域にかかわる活動と気づきを表現する活動を充実させて、子どもの気づきの質を高める必要がある。そこで、まず子どものまち探検への思い（「こだわり」）を高める授業展開として、二次ではクラスでのまち探検を通して様々な発見と疑問を共有できるようにし、三次ではその発見や疑問をもとにして、もっと調べたい「こだわり」グループでのまち探検を実施した。また、まち探検とその表現活動にはタブレット端末を活用する。表現活動の充実が気づきの質を高めることには欠かせない。タブレット端末で撮影した映像（写真や動画）は、言語での情報のやりとりや共有を支えるモノとなる。絵や実物などとともに、表現手段の1つとなるように今回取り入れることとする。(図1)



4. 授業の実際

6グループの「みどりのまちのいいところ紹介」は、グループ発表→質疑応答→全員での「いいところ」共有という流れで2時間に分けて実施した。

(1) 気づきを表現する活動でのタブレット端末活用の効果について

①言語表現を支える映像（写真や動画）の活用が容易にできる

用水グループは、「みどりのまちの用水は飲みます。地下100mからくみ上げているからです」と紹介して動画を見せる。(図2) 視聴後には準備していた地下水を全員で飲む。ポンプから流れ出る水の勢いや音、透明感を動画は伝えていた。地下100mの量感にはあやしいが、映像と手元の水から、少なくともみどりのまちの地下には飲めるほどきれいな水があることは共有できたのではないかと考える。その後発表した健民プールグループも「プールの水は井戸水」との情報をプールの写真とともに伝えたこともあり、学習記録カードに初めて「みどりのまちのいいところ」として「地下水」という言葉が登場してきた。



図2 湧き出る地下水

地下水が湧き出る動画やきれいなプールの写真だけでなく、6つのグループはそれぞれに映像を使って「いいところ」紹介していた。映像は子どもの言語表現を支える1つのアイテムになる。2年生の子どもにもタブレット端末を使うことで映像（動画や写真）の活用が容易にできた。

②伝えたいモノを指で拡大し焦点化して伝えることができる

健民プールグループが人気のスライダープールを紹介する場面。タブレット端末担当の子どもはスライダーの映像部分を指で拡大して見せる。(図3、4) 桑の実紹介のグループも、赤い実が熟した木の写真から、おいしそうな実を大きくアップにして紹介する。ここには、子どもの未熟な撮影技術をカバーし、伝えたいモノをより焦点化して伝えられるよさが見られた。



図3 スライダープール

③タブレット端末が情報の引き出しとして聞き手とのやりとりに対応できる

パン屋グループに閉店時間の質問。朝の仕込みや開店時間は調べたが、閉店時間は調べていない。ここである子どもがお店玄関の写真に注目。写真片隅の営業時間を拡大して対応する。ピザ屋グループも、おいしいピザを焼いてくれる坂池さんが話題となると、タブレット端末を操作する子どもが「ここに（写真）あるよ」と坂池さんの写真を提示。紹介のシナリオでは使わない映像もタブレット端末には保存されている。聞き手とのやりとりに対応できるよさがあった。



図4 指で拡大させる

(2) 教科のねらいとタブレット端末活用の課題について

①様々な表現アイテムの可能性を「見る・使ってみる」ことで表現内容や手段を吟味する力を育む

ピザ屋グループは、ピザづくりを順序よく写真撮影していたが、作り方紹介では生地をこねる1枚しか使わなかった。他のグループでも1つの内容には1つの映像を使う様子があり、複数枚を柔軟に使うことなど、子どもの実態に応じて教師が対応できればよかった。一方、今回全くタブレット端末を活用しなかったグループもあった。生き物グループは用水のコイやザリガニを撮影できず絵で紹介した。(図5) オタマジャクシは、手のあるもの、手も足もあるものなど子どもならではのおもしろさがあった。このことから、写真や動画、絵や実物など様々なアイテムの可能性を子どもが「見る・使ってみる」ことで、様々なアイテムが選択の1つとなり、表現の内容や手段を吟味する力が育むことにつなげたい。



図5 生き物紹介の絵

②子どもの思考と教師のおさえどころを熟考することで新しい気づきを共有する

ふるさとのすてきさに気づくことを願いとした授業である。本時では「水の豊かさ」に気づかせるチャンスがあったが十分に共有できなかった。用水グループが「みどりの用水は地下100mの飲めるほどきれいな水」と動画で紹介し実際に全員で飲む。次に生き物グループが「用水にコイが産卵してくる」と紹介し、さらに健民プールグループも「プールの水は井戸水」と写真で紹介。中でも「コイは夜行性」との紹介に対して聞き手から疑問が出されてコイが注目をあびる場面があった。この「コイ」から「水の豊かさ」に気づきをひらくチャンスもあった。「夜行性」という情報は「夜に産卵する」との意味で、「生き物が産卵してくるような水場」なのである。教師は、何をどこまでどこまでおさえるのか。子どもの思考（何がわかり何がわからないのか）を捉え、新しい気づきを共有するための「おさえどころ」を十分に考えて授業を創る必要がある。